

# 9月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比<sup>\*</sup>DI値の動き

30年9月のDI値は8指標中、「販売価格」のみ上昇。「資金繰り」「雇用人員」は横這い。残り5指標においては下落となった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

板金工事業では仕事の受注が順調であり、家電製品小売業においても白物家電の買換え需要が堅調であった様子。またステンレス業界においても半導体、自動車業界の活況の影響で需要が増加している様子が窺える。

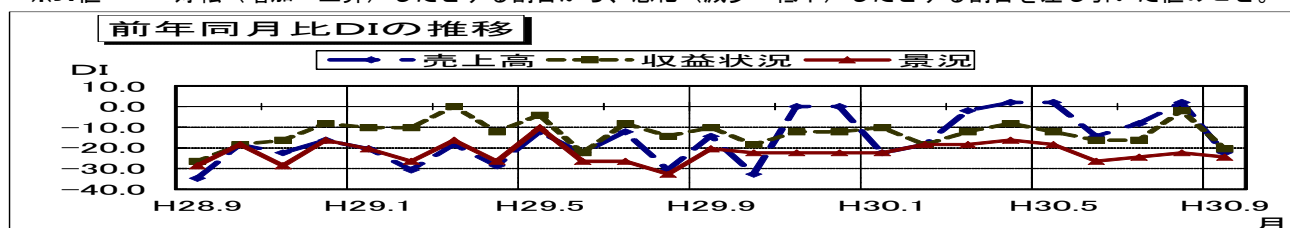
一方、慢性化する労働力問題をはじめ、依然として続く原材料高や軽油価格の上昇に加えて、天候不順による作物への影響、物流停滞、売上高の伸び悩みを嘆く声も寄せられた。

景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、米国に端を発する貿易摩擦懸念や、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H29 9月	10月	11月	12月	H30 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比 増減
景況	-20.4	-22.4	-22.4	-22.4	-22.4	-18.4	-18.4	-16.3	-18.4	-26.5	-24.5	-22.4	-24.5	-2.1
売上高	-14.3	-32.7	0.0	0.0	-22.4	-18.4	-2.0	2.0	2.0	-14.3	-8.2	2.0	-22.4	-24.4
収益状況	-10.2	-18.4	-12.2	-12.2	-10.2	-18.4	-12.2	-8.2	-12.2	-16.3	-16.3	-2.0	-20.4	-18.4
販売価格	0.0	10.2	16.3	12.2	20.4	8.2	18.4	10.2	4.1	4.1	6.1	8.2	10.2	2.0
取引条件	-6.1	-4.1	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-2.0	-2.0	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-6.1
資金繰り	-10.2	-10.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-6.1	0.0	-4.1	-8.2	-14.3	-12.2	-12.2	0.0
設備操業度	0.0	-6.1	-2.0	-2.0	-2.0	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	-6.1	-8.2	-8.2	-10.2	-2.0
雇用人員	-12.2	-18.4	-12.2	-14.3	-14.3	-18.4	-20.4	-18.4	-16.3	-14.3	-14.3	-14.3	-14.3	0.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味噌・前年同月比、みその生産量は97.0%、出荷量は98.4%となった。生産量は3ヶ月前年割れで推移、また市中の特定米穀（くず米）の値上がりの影響で原材料米価格も上昇しているため、収益面は厳しい。季節的な下降要因のほかにコスト高となり悪循環となっている。

#### <繊維・同製品>

2. 縫製・外国人技能実習に関して、新制度の体制整備が不十分（日本国と外国との認識の相違である）煽りを受けて、3号の入国がスムーズに進まなかったため、引き続き生産性に影響が出ている。相変わらず、雇用情勢の悪化が顕著であり、中小企業の人手不足が深刻化しつつある。特に、優良人材（幹部候補生）の獲得が大きな課題である。売上、収益については、秋冬については、夏季より改善傾向である。しかしながら、市場の頭打ちの感は拭えず、特に人口減少とする原因が大きく、将来の景気回復への見通しは引き続き厳しい。

3. 縫製・適性価格での取引が困難な状況が続いている。

#### <木材・木製品>

4. 製材・各地における自然災害と天候不良の影響により荷動きは悪い。
5. 製材・秋需にはいってからも全般的に荷動きが悪い状況が続いている。販売ルートによって景況の差がみられるようである。
6. 木材・原木丸太は天候等の影響で出材量が少なく価格が上昇しているが、取扱い数量が前年より減少していて売上げが伸びない。また製品価格にも大きな変動なく、原木高等が負担となっていて経営は厳しく推移している。
7. 木材・あらゆる木材関連業者の仕事が昨年より20%以上落ちている。新築件数も減少しているし、リフォーム件数も減っている。来年の消費税増税を控え、駆け込み需要がそろそろ予想される時期になっているにもかかわらず、全くそんな気配もない。

#### <印刷>

8. 印刷・9月は8月に引き続き休祭日が多く、稼働日数の少ない月になる。また、受注量も対前年比減少、定期刊行物は頁数や部数の減少が目立って来ている。10月～11月に開催される秋のイベント関係の受注に期待したい。どんどん厳しくなっていく経営環境への対応と改善への取り組みが求められる。

9. 印刷・8月以降業界内で廃業が続いている。情報が入ってくる会社は動きが活発なのだが、全く情報が入ってこない会社は会社の動きそのものが停滞しているようだ。暑さが終わると今度は台風と大雨にさらされ、営業部門の動きが悪くなり、受注がいまひとつ伸び悩んでいる。

<窯業・土石製品>

10. 生コン・9月も昨年同月に比べて約30%近く出荷量が減少しており、昨年度と比べて6ヶ月連続のマイナスである。現状では、官公需、民需ともに減少しており、需要増はまず期待できない状況にある。下半期は特需工事の需要により一時的に出荷量が持ち直すかもしれないが、減少傾向に底打ち感はない。
11. 生コン・9月の出荷数量は、対前年同月比10%の減少となった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して官民での新規新設工事が少なかったことが影響している。今後の出荷数量については、秋口からの新規工事受注が見込まれ、数量的には前年並みを予想している。販売価格については、価格見直しにより上昇したが、原材料費が上がり売上減少に伴い、収益は悪化傾向となっている。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄鋼・業況は概ね横這い状況にあり、一部引き合いの増も見られるところではあるが、設備操業度などに大きな動きはない。また、景況感も大きな変化はみられず、今後の景気動向が注視されるところである。依然、原材料価格の上昇、技術者など人材の確保が課題となっている。
13. ステンレス・国内外ともに目立った大きな変化は無い。部品の調達では、半導体、自動車業界の活況の影響から現在も高負荷な状態が見受けられ、一部で納期遅れ等が発生している。

<一般機器>

14. 機械金属・全体として、売上高や引合いなど良好な水準を維持しており、景況感に大きな変化は見られない。ただ、一部に設備投資の動きもあり、業況の好転が見られるものの、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、引き続き、従業員の確保難をはじめ、原材料の不足、原材料価格等の上昇などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

15. 食糧卸・猛暑、日照不足、作付減少により、もち米を筆頭に相場は高目に推移。収益の圧迫、消費の減退が懸念される。

## <小売業>

16. ショッピングセンター・売上高は全店計95.4%(既存店96.7%)、客数は92.6%(93.5%)だった。相変わらず100%を超えない月が続いている。9/4の台風21号、9/30の台風24号が売上に影響があったかもしれない。9/4は14時までの営業(と言っても12時~14時は停電)、9/30は15時までの営業だった。7月の連絡票に「建物がピロティ構造だから雨の日は強い」と報告しましたが、営業時間縮小には勝てなかった。
17. 電気機器・冷蔵庫・洗濯機・エアコン等、白物家電は底堅い買換え需要があり順調。テレビ等、デジタル関連機器も4Kチューナー内蔵型テレビが少しずつ動きだしてきた。
18. 豊小売業・2つの台風直撃と秋雨前線の影響で一般仕事ができない。注文はあるが「天気のいい日にやってほしい」というものが多い。せめてものなぐさめは、直撃はしたけれど被害が少ないこと。10月もお天気まかせ・  
・。
19. プロパンガス・先月に引き続き、消費機器の交換期限が迫っているので、期限切れの無いよう、順次交換を行い、保安点検に努める。あとは、給湯器の新リース体制が、対象顧客100%となるよう、契約変更していただけるように努める。
20. 機械器具・天候の影響により、販売不振。

## <商店街>

21. 徳島市・店舗移転に伴う閉店の店が1件あった。空店舗になった別の店舗は6ヵ月経た現在でも新しい入居者はいないようだ。
22. 徳島市・残暑厳しい今月初めから早くも冬への展開に出る店舗もあるが、時には暑さ対策を考え、通行人にも夏の疲れが出ているようで異常な9月であった。

## <サービス業>

23. 土木建築業・平成30年度業務件数は29年度同様に受注。当該業務は1年間で、年度初めの4・5・6月 年度中後期の11・12・1月に忙しい。8月、9月は工事、業務等の発注も7割がた終わり、落ち着いている。去年度とさほど変わらない。30年度の懸案箇所を抽出し、補正予算の根拠資料を9月から10月はじめに作成し、局へのヒアリング資料作成で9月後期から各課とも忙しくなってきた。9月は台風が多く接近上陸したので、道路、河川において、応援体制、特別巡視に担当技術者が夜間、休日に出勤しており、残業代等が多く必要、(官側は変更対応がなし3日連続の場合のみ協議し、人件費の変更増額となる。)
24. 自動車販売整備業・登録自動車(普通車)の新車登録台数は対前年同月比1.1%の1,684台、中古車は-17.3%の387台、合計では-3.0%の2,071台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比4.1%の1,321台、中古車-5.5%の362台、合計は1.9%の1,683台である。登録自動車(普通車)・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-0.8%の3,754台と微減。新車の販売数などの売上高は昨年とほぼ同様。収益状況は登録車の車検・点検などのサービスによる収益が昨年より約18%減。軽自動車は約5%減。
25. 旅行業・9月は台風の影響で、いろいろ大変だったようだ。

26. 広 告 業・ 今月は台風が多かったので急な撤去や、破損の為のやり替え工事などが多かったが、台風のため工事が遅れた件もあったので、売上高は特に変化はなかった。

<建 設 業>

27. 建 設 業・ 西日本建設業保証(株)徳島支店による徳島県の発注工事状況では、上半期の対前年比約45%増となっている。しかし、会員企業の景況感は悪い。また、地域格差が広がっている。(鳴門地区-40%、那賀地区-11.7%)

28. 電気工事業・ 新設住宅口数は219件であり、対前年比83.2%と減少した。

29. 板金工事業・ 仕事量は順調に続いてあるようだ。

<運 輸 業>

30. 貨物運送業・ 一般貨物輸送は、月2度の台風上陸による影響を受け全般に大幅な減収となった。また一方で米国のイラン制裁の影響を受け、原油価格の上昇により軽油単価も上昇し前月比、約3円弱の値上がりとなり、経営を圧迫しつつある。

31. 貨物運送業・ 今年に入り軽油価格は上昇を続けており、平成27年1月以降の最高値を更新し続けている。全ト協の調査によるスタンド平均(全国)では110円を超えた。9月は2度にわたる台風の直撃があり、徳島の運送事業者も影響を受けた。直接的な被害では風で飛んできた物で営業所や車両に損傷等があり、また高速道路や本四連絡橋の通行止めにより足止めや運行計画の乱れがあった。青果物では収穫の減少だけでなく種まきや栽培に影響が出るため、今後も輸送量が減ることが懸念される。